

令和4年12月21日

デジタル技術の活用及びDX推進の取り組み状況

うすき動物病院

1. デジタル技術の重要性

デジタル技術の活用は、顧客満足度を向上させ、当社の競争力に対し好影響を及ぼす非常に重要な要素だと考えています。

具体的には以下の3点より、競合優位性が高まります。

A) 労働生産性の向上

レントゲン検査・血液検査はデジタル技術の活用によって従来と比較して60～80%検査時間を短縮可能であるため、検査効率の大幅な向上が期待できます。また生体情報モニタは麻酔管理を自動化し、獣医師が麻酔管理に対処する時間がなくなります。ホルモン検査についても最新のデジタル技術で高精度に実施可能になるため、約1週間の工程が院内約10分で完了します。

B) 見える化の推進

生体情報モニタやDR装置の活用で、これまで視覚的に把握できなかったペットの麻酔状態や生体内の状況をデジタル技術により飼い主様に目で見えて理解していただくことが可能になります。より理解をして頂いた上での治療を進めることで、インフォームドコンセントを徹底します。

C) 安全性の向上

安全性を向上させ医療ミスの可能性を極限まで低くすることは、レピュテーションリスクを低減するためにも非常に重要です。デジタル技術により術中の麻酔管理とレントゲン検査の画像解析、血液・ホルモン検査の煩雑な作業を自動化することで、人為ミスがなくなり、安全性が向上します。

2. 上記を踏まえた弊社の経営ビジョン

「DX推進により大学病院レベルの腫瘍検査・手術を提供できる動物病院に進化する」

当院は本事業を通じて、ペットの死因第一位の腫瘍疾患に二次診療レベルの高度医療を提供可能なホームドクターに進化します。設備導入とそのデジタル技術の活用によって、高度医療を提供します。デジタル技術の活用は、当院とペット、飼い主様、そして周辺地域にとって多くのメリットがあります。顧客満足度の向上によって来院数が増加し、経営面で弊社に寄与します。

3. 当社の経営ビジョンの実現のための戦略

- 腫瘍疾患以外にも今後継続的にデジタル化の検討
- デジタルリテラシーを強化する教育
- 上記をより推進するための外部専門家との連携

令和4年12月21日

4. 戦略推進のための組織体制

